

平成21年度「携帯電話についてのアンケート」調査の結果

教学指導課 心の支援室

○調査の目的	児童生徒の携帯電話の利用の実態を把握し、指導の参考に資するため		
○調査対象及び抽出校	高等学校12校（1,177名）		
	高校1年生400名	高校2年生409名	高校3年生368名
○調査時期	平成21年10月		

法律*…青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律（平成21年4月1日施行）

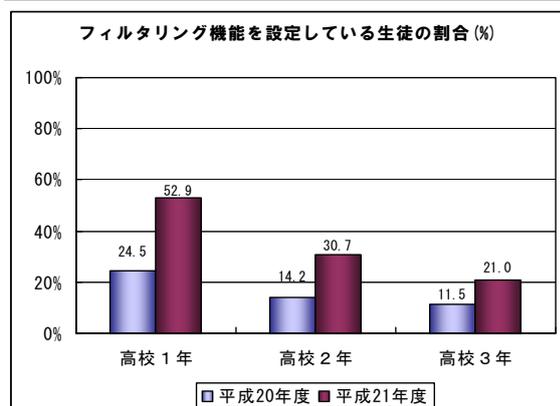
1 携帯電話を所持している生徒の割合（%）

	高校1年	高校2年	高校3年
平成20年度	98.2%	97.5%	96.3%
平成21年度	94.5%	97.1%	95.7%

携帯電話の所持率は、昨年度の調査結果と比較すると微減しているものの9割以上と高い。

2 フィルタリング機能を設定している生徒の割合（%）

	高校1年	高校2年	高校3年
平成20年度	24.5%	14.2%	11.5%
平成21年度	52.9%	30.7%	21.0%

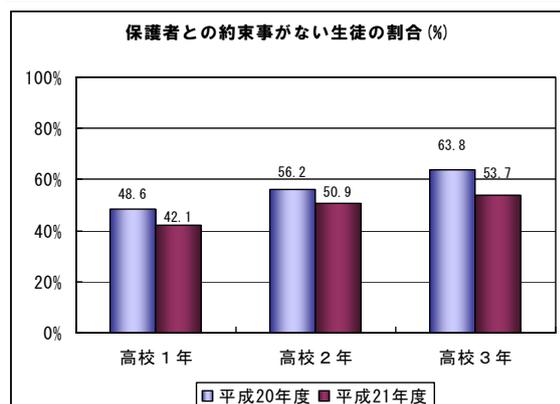


フィルタリング機能を設定していると回答した生徒の割合は、昨年度の調査結果と比較すると、どの学年においても約2倍になった。

平成21年4月より施行された法律*の効果によると考えられるが、フィルタリング機能の設定率が比較的高い高校1年生でさえ5割程度である。法律は整備されたものの、依然として約5割の生徒がフィルタリング機能を設定していない。

3 保護者との約束事がない生徒の割合（%）

	高校1年	高校2年	高校3年
平成20年度	48.6%	56.2%	63.8%
平成21年度	42.1%	50.9%	53.7%

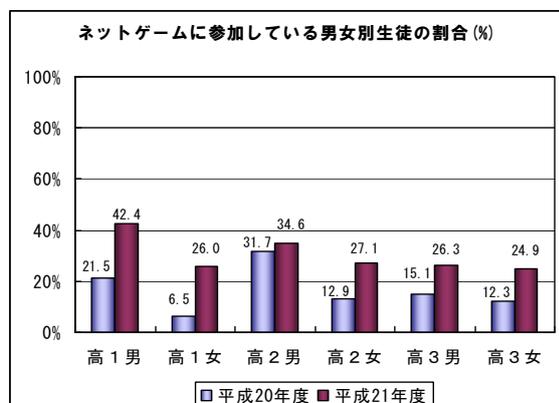


携帯電話を利用するにあたり保護者との約束事がないと回答した生徒が約5割もいる。昨年度の調査結果と比較すると減少しているものの、今後も学校と保護者が連携して指導する必要があることを示している。

携帯電話は便利な機器であるが、便利さの裏側にある影の部分について保護者が認識をし、利用にあたって適切に指導する必要がある。（法律*には「保護者の責務」として明記されている。）

4 ネットゲームに参加している男女別生徒の割合 (%)

	高1男	高1女	高2男	高2女	高3男	高3女
平成20年度	21.5%	6.5%	31.7%	12.9%	15.1%	12.3%
平成21年度	42.4%	26.0%	34.6%	27.1%	26.3%	24.9%



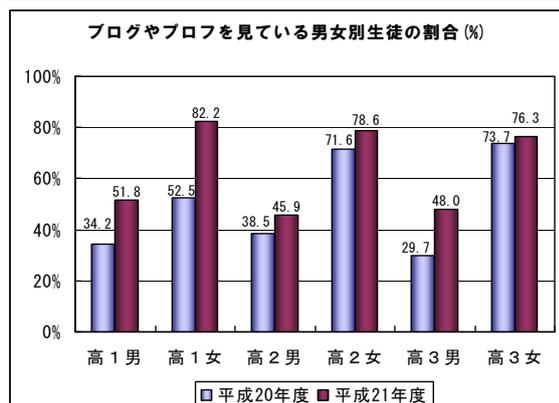
ネットゲームに参加していると回答した生徒の割合は、どの学年においても増加している。

特に、高校1年生においては、男子が42.4%、女子が26.0%と、昨年度の調査結果と比較すると急増している。男子の割合が多いものの、女子の割合の大幅な増加が目立つ。

ネットゲームの現状や機能、その利用状況などについて把握し、適切に指導する必要がある。(法律※には「保護者が適切に管理」と明記されている。)

5 ブログやプロフを見ている男女別生徒の割合 (%)

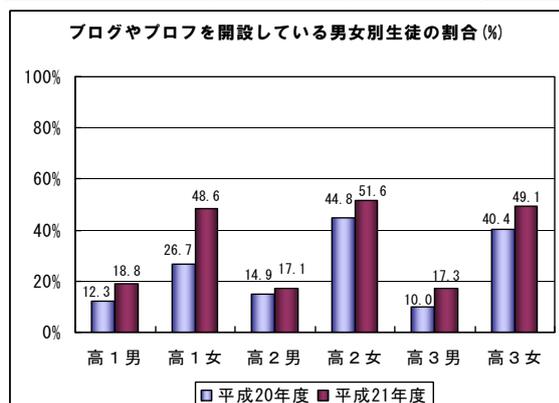
	高1男	高1女	高2男	高2女	高3男	高3女
平成20年度	34.2%	52.5%	38.5%	71.6%	29.7%	73.7%
平成21年度	51.8%	82.2%	45.9%	78.6%	48.0%	76.3%



ブログやプロフを見ていると回答した生徒の割合は、高校1年生で男子が51.8%、女子が82.2%である。昨年度の調査結果と比較すると大幅に増加している。

6 ブログやプロフを開設している男女別生徒の割合 (%)

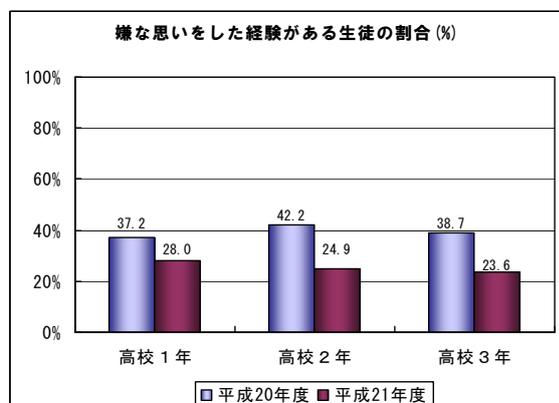
	高1男	高1女	高2男	高2女	高3男	高3女
平成20年度	12.3%	26.7%	14.9%	44.8%	10.0%	40.4%
平成21年度	18.8%	48.6%	17.1%	51.6%	17.3%	49.1%



ブログやプロフを開設して、ネット上に公開していると回答した生徒の割合は、高校1年生で男子が18.8%、女子が48.6%である。昨年度の調査結果と比較すると女子の割合が約2倍に増加している。

7 嫌な思いをした経験がある生徒の割合 (%)

	高校1年	高校2年	高校3年
平成20年度	37.2%	42.2%	38.7%
平成21年度	28.0%	24.9%	23.6%



携帯電話のインターネット機能やメール機能を使用して本年度4月から10月までの間に「嫌な思いをしたことがある」と回答した生徒の割合は、昨年度の調査と比較すると、どの学年においても減少している。

しかし、「メール、掲示板、チャットで悪口を書かれた」や「掲示板に個人情報を無断で公開された」などの項目は微増している。

個人情報保護や人権教育の観点からも、今後も指導が必要な部分である。